

MINOLTA SR 505/101



ご使用前に必ずお読みください。



使用説明書

お買上げありがとうございます。
SR505、SR101は、ロングランを
続けているSR-Tシリーズの機能を
受けついで新鋭機です。
SR-Tで好評の開放測光TTLに加
え、撮影に必要な情報がファイン
ダー内に表示される、情報集中ファ
インダーを継承しています。また、

ミノルタX-1、XE、SR-Tシリ
ーズの交換レンズとアクセサリーが
すべて共用できます。
よくご覧になって、正しい操作とゆ
きとどいた手入れで、このカメラの
性能をフルに発揮していただき、末
ながくご愛用いただくようお願い申
し上げます。

この使用説明書はSR505、SR101と共通になっています。
SR505を中心に説明していますが、SR101を購入された
方も操作方法は殆んど同じです。相異点については特に区
別して説明していますので、ご使用のカメラに合わせてご
覧ください。なお、この使用説明書はF1.4レンズ付きの
説明になっていますが、F1.2、F1.7レンズおよびブラッ
クをお求めの方も使用方法は同じです。
この使用説明書はあくまでもカメラの使い方が基本になっ
ていますので、基礎的な知識等は別の専門書をご参照願
います。

目次

| | |
|--------------------------|----|
| 各部の名称(SR505)..... | 4 |
| 各部の名称(SR101)..... | 6 |
| ●カメラ操作編(撮影の準備から完了まで) | |
| 水銀電池を入れます..... | 9 |
| 撮影の手順..... | 10 |
| ●基本操作編 | |
| ストラップ・ケースについて..... | 13 |
| 電池のチェック..... | 14 |
| レンズの着脱..... | 15 |
| フィルムの入れ方..... | 16 |
| フィルムシグナルについて(SR505)..... | 17 |
| フィルム感度のセット..... | 18 |
| フィルム巻上げについて..... | 19 |
| シャッタースピードと絞り..... | 20 |
| ファインダーについて..... | 21 |
| 露出の合わせ方..... | 22 |
| ピントの合わせ方..... | 23 |
| シャッターリリースについて..... | 24 |
| フィルムの巻戻し..... | 25 |

●実技応用編

| | |
|----------------------|----|
| MC以外の交換レンズについて..... | 27 |
| 各交換レンズの使用法..... | 28 |
| セルフタイマーの使い方..... | 29 |
| フィルターの使い方..... | 30 |
| 絞りについて..... | 31 |
| 絞り効果の確認..... | 32 |
| フラッシュ撮影の仕方..... | 34 |
| 赤外撮影(赤外マークについて)..... | 37 |
| ⊖マークはフィルム位置..... | 37 |
| 多重露光撮影(SR505)..... | 38 |

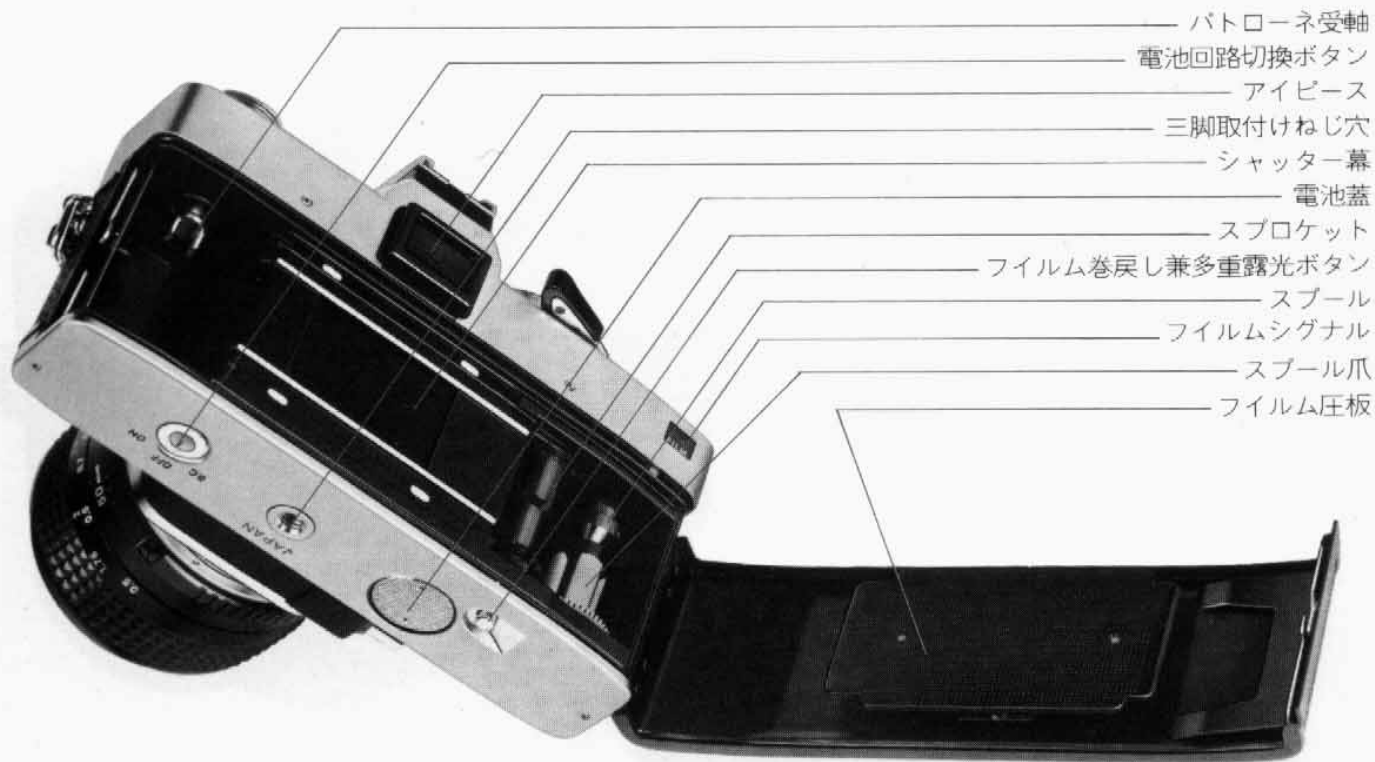
●参考編

| | |
|------------------------|----|
| 主な性能..... | 40 |
| 主な特長..... | 42 |
| カメラの保存と手入れ..... | 43 |
| ミノルター一眼レフシステムチャート..... | 44 |
| アフターサービスのご案内..... | 46 |
| 各地サービス・ステーション..... | 48 |

各部の名称(SR505)

- 巻戻し兼裏蓋開閉ノブ
- ダイレクト接点
- シャッタースピード兼フィルム感度ダイヤル
- 巻上げレバー
- シャッターボタン
- フィルムカウンター
- レンズ交換用ボタン
- 距離目盛
- メーターカブラー (露出連動爪)
- 被写界深度目盛
- 絞りリング
- 焦点調節リング
- セルフタイマーレバー
- プレビューボタン

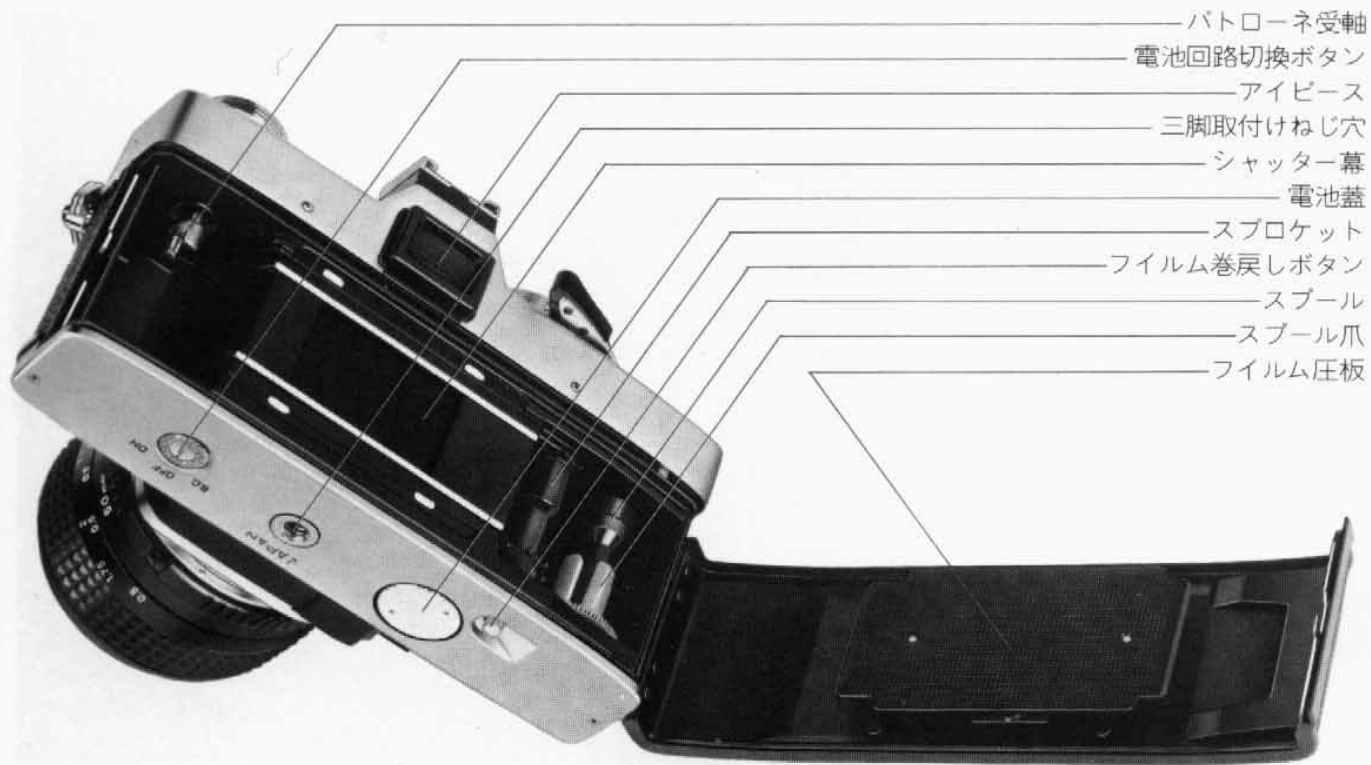




各部の名称(SR101)

- 巻戻し兼裏蓋開閉ノブ
- ダイレクト接点
- シャッタースピード兼フィルム感度ダイヤル
- 巻上げレバー
- シャッターボタン
- フィルムカウンター
- レンズ交換用ボタン
- 距離目盛
- 被写界深度目盛
- メーターカブラー(露出連動爪)
- 絞りリング
- 焦点調節リング
- セルフタイマーレバー
- プレビューボタン





カメラ操作編

撮影の準備から完了まで



水銀電池を入れます

まず電池室に水銀電池(JIS H-D型1個)を入れます。

1 電池蓋を取りはずします。電池蓋に親指をあてて反時計方向に回すとはずれます。



2 電池蓋にある電池の方向の表示に従って、電池室に水銀電池を入れます。

電池蓋を電池室に取付けます。



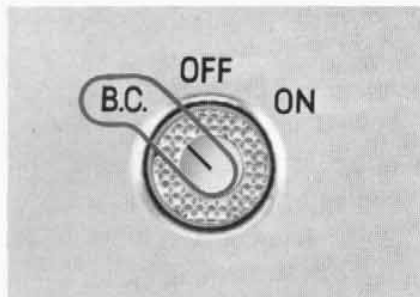
水銀電池のお取替は使用済みの電池と交換をお願いします。カメラに使用している水銀電池は完全シールをしていますので、カメラをご使用中に電池の中身が外に出ることはありませんが、公害防止のため、新しい水銀電池をお求めの時は、必ず使用済みの水銀電池を持参し、カメラ店または電気店にて現品と引換えでお求めください。

- 撮影の都度、電池回路切換ボタンをOFFにする必要はありません。撮影に出かけるときは、帰るまでONのままにしておいても構いません。2～3日以上使用しないときはOFFにしておいてください。
- 電池を入れるとき、電池の表面に汗や脂をつけないようにしてください。汚れたまま使用すると接触不良の原因になります。

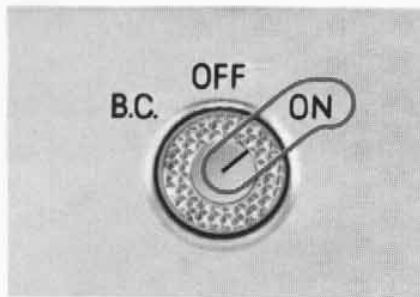
- ★電池を火の中に入れるなど、急激に熱すると爆発の危険がありますのでご注意ください。
- ★長期間(1ヶ月以上)使用しない場合には、電池を取出して乾燥した場所に保存してください。
- ★電池を入れるとき(+)(-)を間違えると露出計は動きません。

撮影の手順

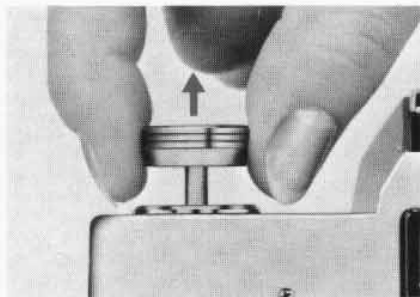
- 1 バッテリーチェックする。
(P14参照)



- 2 電池回路切換ボタンをONにする。



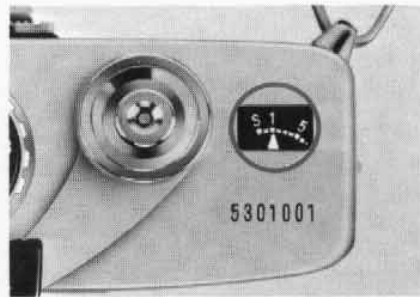
- 3 裏蓋を開ける。
(P16参照)



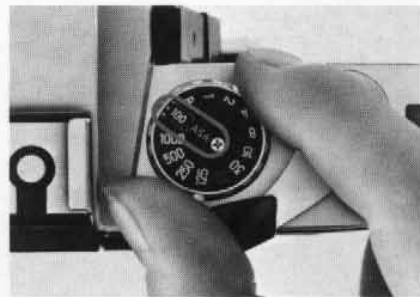
- 4 フィルムを入れ、裏蓋を閉じる。
(P16参照)



- 5 カウンターを1にする。
(P16参照)



- 6 フィルム感度を合わせる。
(P18参照)



7 シャッタースピードを決める。
(P20参照)



9 ピントを合わせる。(SR505)
(P23参照)



10 シャッターを切る。
(P24参照)



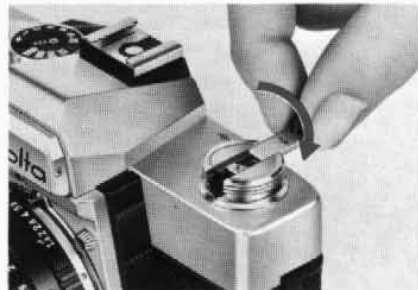
8 絞りリングを回してファインダー内のメーター指針に追針を合わせる。(P22参照)



9 ピントを合わせる。(SR101)

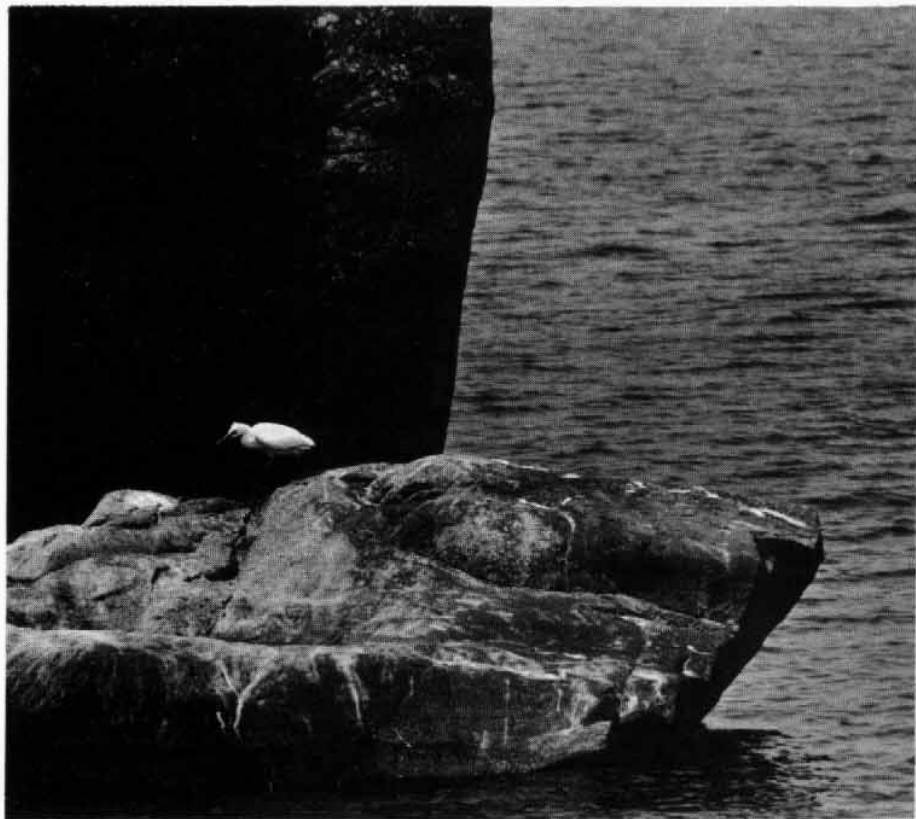


11 フィルムを巻戻し、フィルムを取り出す。(P25参照)



●取扱いの詳細は各参照ページをご覧ください。

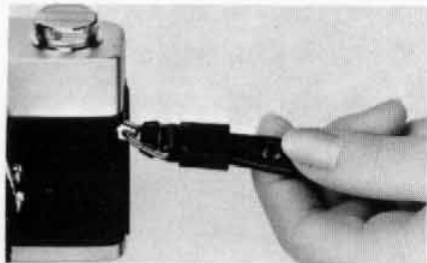
基本操作編



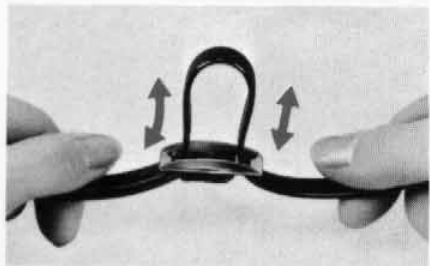
ストラップ・ケースについて

1. ストラップの取付け方

- 1 カメラに取付けられた三角環にストラップを通し、そのストラップの先をボタンで止めます。



- 2 ストラップの長さは、肩から下げ易い長さに調節します。



2. ケースの取付け方

- 1 ケースはケース止めねじを使ってしっかりとカメラに固定します。

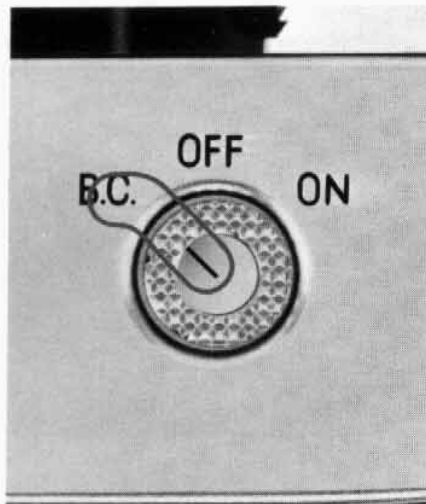


- 2 ケースの前カバーを取りはずすときは一度矢印の方向に押し上げてから引っぱるとはずれます。



電池のチェック

- 1 水銀電池の回路切換ボタンを B.C. にまわします。



- 2 ファインダーの指針が、図のようにチェックマークの位置にすれば、電圧は良好です。



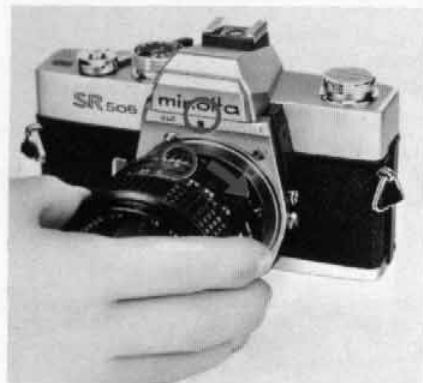
- バッテリーチェック位置でも電池は消耗していますので、チェック後すぐもとに戻してください。
- 水銀電池の寿命は約一年。寿命がくると急激に電圧低下をきたします。

★指定型(JIS H-D型)以外の電池は使用しないでください。

レンズの着脱

1 取付け方

カメラ側のレンズ交換指標(赤点)と、レンズ側の指標(赤点)を合わせ、時計方向にカチッとロックがかかるまで(1/4回転)回すとレンズは正規の位置に固定されます。



2 取りはずし方

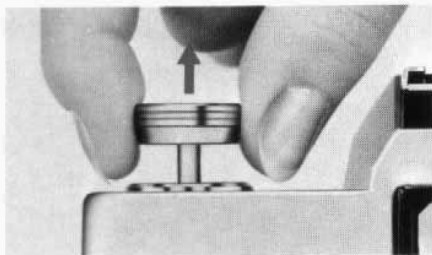
レンズ交換用ボタンを押し、レンズを反時計方向に回すとはずれます。



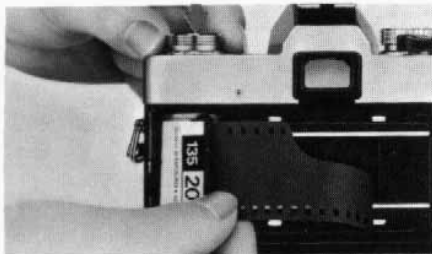
- レンズ交換をする際、レンズ面にキズや指紋をつけないようにしてください。また、カメラのボディ内にゴミが入らないように注意してください。

フィルムの入れ方

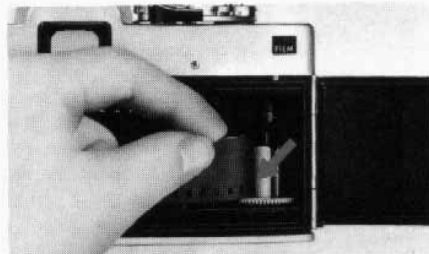
- 1 裏蓋開閉ノブ（フィルム巻戻し兼用）を引出し、さらに強く引くと裏蓋が開きます。



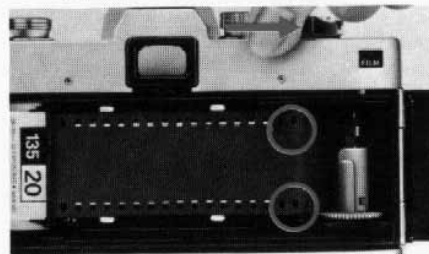
- 2 バトローネを写真のように入れ、裏蓋開閉ノブをもとどおりにしますと軸がバトローネを固定します。



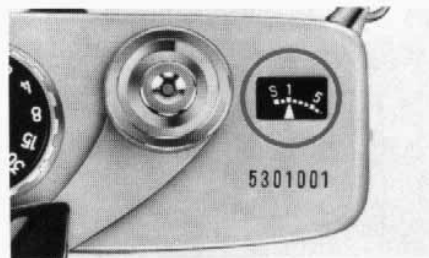
- 3 フィルムを少し引き出し、フィルムの先端をスプール爪に差し込みます。



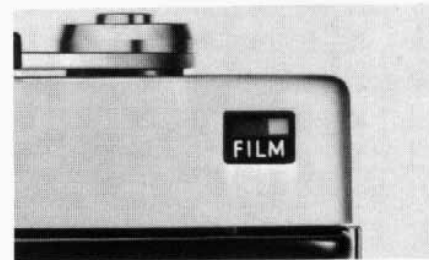
- 4 巻上レバーでフィルムを巻上げ、フィルムの両側の穴（パーフォレーション）がスプロケットの歯にかみ合うまで巻上げます。



- 5 裏蓋をしましてからフィルムを巻上げ、シャッターを切り、フィルムカウンターを1にします。



- 6 このとき、SR505では橙色のフィルムシグナルが出ていれば、フィルムは確実に送られています。



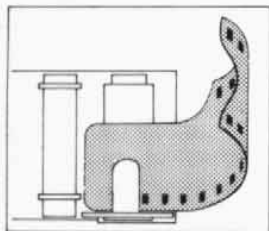
フィルム・シグナルについて (SR505)

- フィルムを入れる際、直射日光の当たらない場所で行なってください。

★SR505では、フィルム巻戻しボタンが押しこまれた状態のとき、巻上げてもフィルムは送られません。このとき、もう一度、シャッターボタンを押して巻上げレバーを巻上げてください。

★フィルムをスプール爪に差込むときは、P16の3の写真、または、下のイラストに示す推奨する差込み方をしてください。

●推奨する差込み方



フィルムカウンターを1にしたとき



フィルムカウンター15付近をこえたとき

フィルムの装填、巻上げ、巻戻しに関する情報がこのフィルムシグナルによりえられます。

- (1) フィルムを装填し、フィルムカウンターを1にした時は、フィルムシグナル（橙色マーク）が窓の右側に出てきます。
- (2) フィルムを巻上げるに従って、フィルムシグナルは右側から左側へ移ってゆきます。撮影枚数がほぼ15枚をこえると、フィルムシグナルの動きは非常に少くなります。

- (3) 撮影が終わり、フィルムを巻戻すとき、巻戻されるに従って、フィルムシグナルは左側から右側へ戻ってゆき、巻戻しが完了すると窓からフィルムシグナルは消えます。

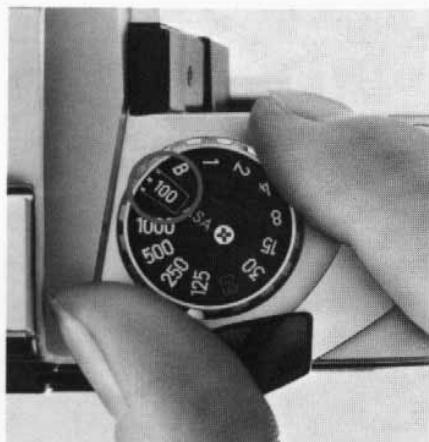
★フィルムシグナルが出ているときは裏蓋を開けないでください。

★カメラにフィルムが入っているかの確認はフィルムシグナルでおこなってください。

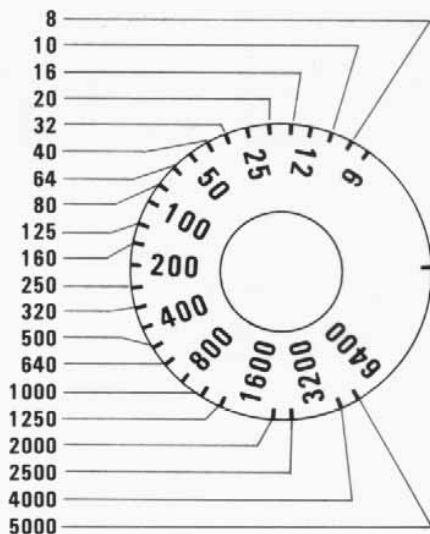
巻戻しノブを回して確認すると、画面間隔が不ぞろいとなる原因になりますので止めてください。

●SR101ではフィルムシグナルがありませんので、フィルムを巻上げたときの巻戻しノブの回転で確認してください。

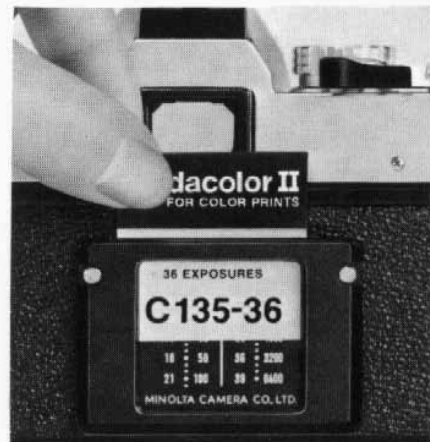
フィルム感度のセット



フィルムを入れ終わったら、次は使用するフィルムの感度をセットします。(フィルム感度はフィルムの外箱に **ASA** と記入されています。) たとえばASA100のフィルムなら、シャッタースピードダイヤルの外周リングを引きあげながら回して、フィルム感度ダイヤルの100を、フィルム感度窓に合わせます。



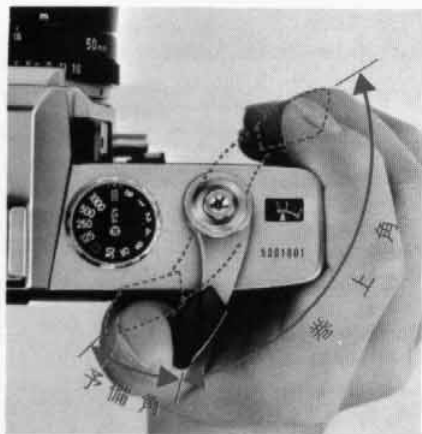
★フィルム感度のセットは露出の基本となるものですから、間違いのないよう確実にセットしてください。



●メモホルダー

使用フィルムの箱の一部を切り取り、メモホルダーに差し込んでおけば、撮影中のフィルムの種類が一目でわかります。

フィルム巻上げについて



- 1 巻上げレバーを止まるまで回して巻上げます。また、小刻み巻上げもできます。
- 2 フィルム巻上げ角度は 150° ですが、これを小刻み巻上げすることにより、また予備角の 20° を利用することにより、巻上げがすばやくでき、速写のとき便利です。

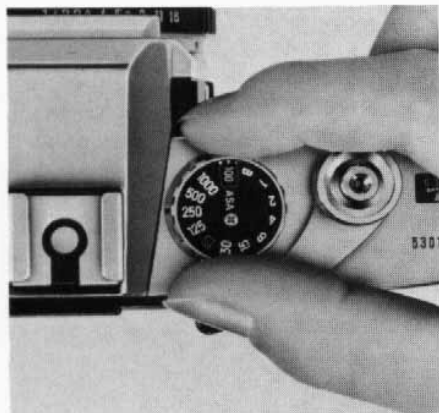
★フィルムの終わりでは、巻上げの途中で重くなり、巻上げられなくなります。この時、無理に巻上げないでください。フィルムが切れて巻戻しができなくなります。

★シャッターボタンを押して、指をボタンから離さない内に次の巻上げをすると、巻上げがスリップして2~3コマ空送りします。必ず指を離してから次の巻上げをしてください。

なお、この現象が起きてもカメラは故障ではありません。

★なお、この現象が起きたときは、シャッターボタンから指を離し、止まるまで巻上げてください。

シャッタースピードと絞り



シャッタースピードは、フィルムに入る光量を時間的にコントロールするものです。

シャッタースピードの調節はボディ上の赤印にシャッタースピードダイヤルを回して希望の目盛を合わせます。シャッタースピード目盛のB、1~1000の数字は各々、B(バルブ)、1秒、1/2秒...1/1000秒の露出時間を示します。

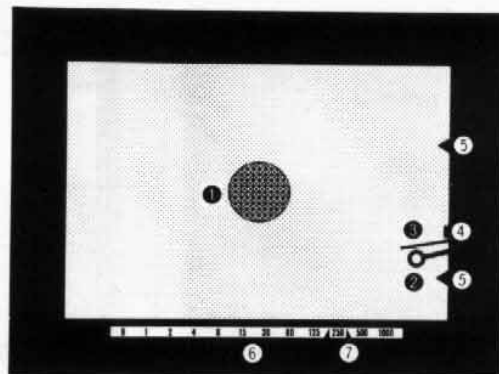
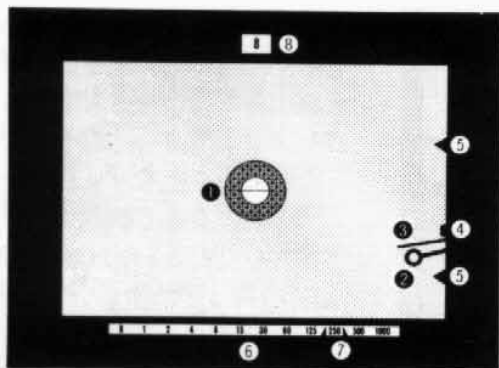
(1)適正露出のシャッタースピード、絞りの組合わせには、いくつかの組合わせができます。メーター指針と追針は、ご使用のフィルムに対して適正な露出を与える組合わせの時のみ一致します。その連動範囲はASA100で、EV3~EV17です。(F1.4レンズのとき)

(2)ASA100のフィルムの場合、屋外撮影ではシャッタースピードは、1/125~1/250秒、室内では1/30秒にし、動体はなるべく速いシャッタースピードで撮影することをおすすめします。

(3)集合人物や、建築写真のように被写界深度を深くして使うときは、できるだけ小絞りにします。(絞りについてはP33参照)

| SR505 | SR101 |
|---|-------------------------|
| 2秒以上の露出には、シャッタースピード目盛のBを使ってください | |
| 赤色の60はストロボを使って撮影するときにも利用するシャッタースピードで60秒です | |
| シャッタースピード目盛の中間は使えません | |
| ファインダー内にシャッタースピード、絞り値が表示されます | ファインダー内にシャッタースピードが表示されず |

ファインダーについて



SR505

SR101

① スプリットマイクロプリズム ピントを合わせるとき使します

マイクロプリズム ピントを合わせるとき使します

② メーター追針 シャッタースピードダイヤル、または、絞りリングを回すと連動して動きます

③ メーター指針 被写体の明るさに応答して動きます

④ バッテリーチェッカーマーク 電池回路切換ボタンをBCにしたとき、指針がこの位置まで振れたとき電池は正常です

⑤ 連動外警告マーク メーター指針が警告マーク上にある場合、適正な露出がえられないことを警告します

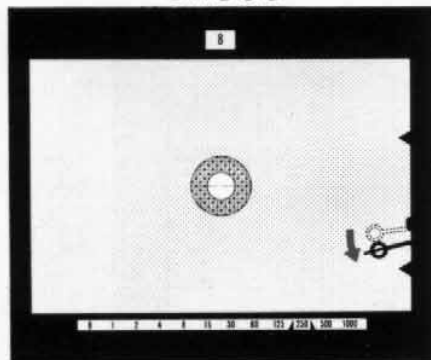
⑥ シャッタースピード目盛

⑦ シャッタースピード指標 シャッタースピードダイヤルにセットされたシャッタースピードが表示されます

⑧ 絞り値 レンズにセットされた絞り値が表示されます

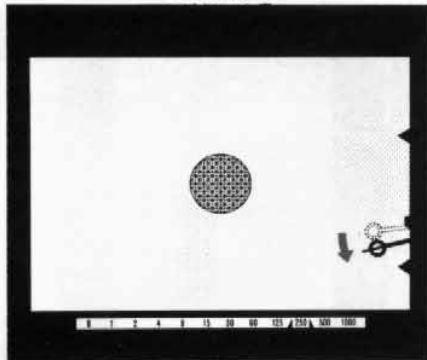
露出の合わせ方

SR505



1. 電池回路切換ボタンをONにして、被写体にカメラを向けると、ファインダー内のメーター指針が振れます。
2. シャッタースピードダイヤル、または、絞りリングを回して、指針に追針を合わせます。
- 上下の◀マークはメーターの連動範囲を示し、メーター指針がこの範囲内にある時は、明るさに連動した正しい指示を示しています。

SR101



- 操作方法として、一般的にはシャッタースピードを先に決め、それから絞りリングを回して測光される方が容易に露出合わせができます。絞りリングを回しても追針が指針に合わない時は、シャッタースピードダイヤルを回してください。
- SR505の時は、ファインダーにシャッタースピード目盛と絞り値が表示されるので、ファインダーから目を離さずに、セットしたシャッタースピードと絞り値を知るこ

とができます。

- SR101のときは、シャッタースピード目盛が表示されます。
- シャッターを切るたびにメーター指針が振れますが、撮影には影響ありません。安心してお使いください。

★ベローズ、中間リングⅡを用いるときの露出合わせは、絞り込み測光で使用し、ハンドプリセットレンズの場合と同じになります。(P 27参照)

★絞りを絞って接写する時、接眼部から特に強力な光が入らぬよう注意して露出合わせをしてください。

ピントの合わせ方

被写体の構図を決めたら、次はピントを合わせます。ピントは、ファインダーをのぞきながらレンズの焦点調節リングを回し、SR505のときは中央のスプリットマイクロプリズムとマット面で確認します。SR101のときはマイクロプリズムとマット面で確認します。

- マイクロプリズム及びマット面を使用する場合

ピントが合っているときは、像がはっきりと見えます。ピントが合っていないと、マット面では像がボケ、マイクロプリズムでは像がちらつきます。

- スプリットを使用する場合(SR505)

ピントが合っていないと、スプリットプリズムの上下で像が左右にズレます。ピントが合えば、像のズレがなくなります。

SR505



ピントが合っている状態



ピントが合っていない状態

SR101



ピントが合っている状態

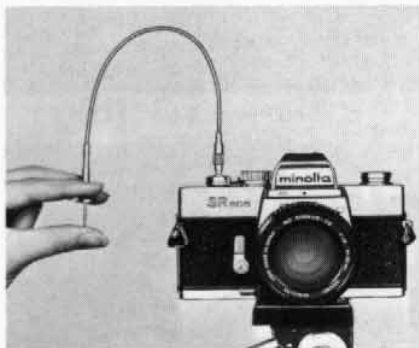


ピントが合っていない状態

シャッターリリースについて

シャッターボタンを押すとシャッター幕が開いてフィルムが露光されます。この時、あまりおそいシャッタースピードで露光されるとカメラブレが起きますので注意してください。

- カメラブレの目安としてシャッタースピードが $\frac{1}{50}$ 秒より速いかどうかで判断してください。



- シャッタースピードが $\frac{1}{50}$ 秒より遅いときは、カメラブレが起きやすいのでカメラをしっかり構えてシャッターを切ってください。わきの下をしめて、左手は下からレンズをささえるように構えるのが良いでしょう。

あまりにもおそいシャッタースピードのときは、三脚とリリースの利用をおすすめします。

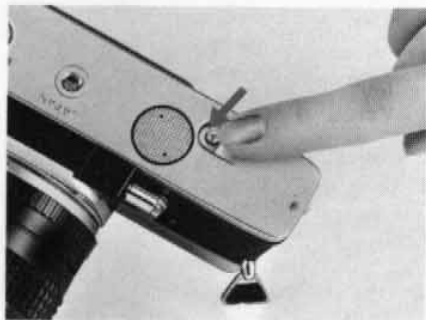


- ★三脚を使用するとき、カメラボディの三脚ねじ穴の深さより長い三脚ねじを使わないでください。SR505, SR101の三脚ねじ穴の深さは6.3ミリです。
- ★このカメラのシャッターは布幕です。レンズを直接太陽に向けていると、シャッター幕に穴があくおそれがありますので、撮影する時以外は、レンズキャップをするよう心がけてください。

フィルムの巻戻し

撮影が終わったらフィルムを巻戻します。

| | | | |
|-------|--|--|--|
| SR505 | 1 カメラ本体の下側にあるフィルム巻戻しボタンを押します。 (このとき、指を離してもボタンは押されたままになっていますが、もし指を離してもボタンが出てきたときは、再度ボタンを押し、巻戻してください。) | 2 巻戻しクランクレバーを起こし、矢印の方向に回します。この時、フィルムシグナル(橙色マーク)はフィルムが巻戻されるに従って、左側から右側に動きます。 | 3 フィルムの巻戻しが完了しますと、フィルムシグナル(橙色マーク)は消えます。フィルムシグナルが消えた時、巻戻し操作を止め、裏蓋を開けてフィルムを取り出してください。 |
| SR101 | | 2 巻戻しクランクレバーを起こし、矢印の方向に回します。 | 3 フィルムの端がスプール爪から離れると、巻戻しが急に軽くなるので、手ごたえでわかります。このとき、巻戻し操作を止め、裏蓋を開けてフィルムを取出してください。 |



- ★巻戻し途中では裏蓋をあけないでください。誤ってあけるとフィルムが駄目になってしまいます。
- ★取出したパトローネは明るいところへ放置しないでください。パトローネは完全に遮光するものは少なく、長く放置するとカブリ(光が入る)を生じる危険性があります。

実技応用編



MC以外の交換レンズについて

1. MC以外の完全自動絞り式ロックロールレンズをお持ちの方。

1 巻上げレバーを巻上げてから、ボディ側のプレビューボタンを押します。

2 シャッタースピードを決め、レンズの絞りリングを回して露出を合わせます。



2. ハンドプリセット絞り式、およびフィルターによる光量調節方式のロックロールレンズをお持ちの方。

1 巻上げレバーを巻上げてから、ボディ側のプレビューボタンを押します。

2 シャッタースピードを決め、プリセットリングをあらかじめ最小絞りの位置に回しておき、絞りリングを回して露出を合わせます。

または、プリセットリングと絞りリングを揃えて操作しても同様に露出が合わせられます。



- これらのレンズでは露出合わせのあと、もしレンズを開放にするとメーター指針は追針から外れますが、使用の絞り値を変えないときは再び露出合わせを行う必要はありません。

- これらのレンズではシャッタースピードを変えると追針が動き、絞りを変えるとメーター指針の振れが変わります。

- ハンドプリセットレンズではプレビューボタンを使う必要はありません。

★旧自動絞り式ロックロールレンズの内、一部使用できないものがあります。くわしくは各地サービスステーションにご相談ください。

各交換レンズの使用方法

各交換レンズの測光方法

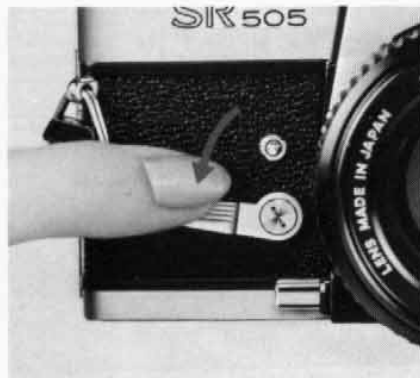
| レンズの種類 | | 測光方式 | | 絞り方式 | | レンズの種類 | | 測光方式 | | 絞り方式 | |
|----------------------------|------------------|------|---|--------------------|--|-------------------|-------------------|--------|--------|------------|--|
| 超 広 角 ・ 広 角 | MC 16mm F2.8 | 開放測光 | | 完全自動絞り | | 超 望 遠 | TELYT-S800mm F6.3 | 絞り込み測光 | } | ハンドプリセット絞り | |
| | MC 17mm F4 | ◇ | | ◇ | RF 800mm F8 | | ◇ | | | NDフィルタ | |
| | MC 21mm F2.8 | ◇ | | ◇ | RF 1000mm F6.3 | | ◇ | | | ーによる光量 | |
| | MC 24mm F2.8 | ◇ | | ◇ | RF 1600mm F11 | | ◇ | | | 調節方式 | |
| | MC VFC 24mm F2.8 | ◇ | | ◇ | ズ ー ム | MC 80~200mm F4.5 | 開放測光 | | 完全自動絞り | | |
| | MC 28mm F2 | ◇ | | ◇ | | MC 100~200mm F5.6 | ◇ | | ◇ | | |
| | MC 28mm F2.5 | ◇ | | ◇ | | MC 100~500mm F8 | ◇ | | ◇ | | |
| | MC 28mm F2.8 | ◇ | | ◇ | マ ク ロ | MC 50mm F3.5 | ◇ | | ◇ | | |
| | MC 28mm F3.5 | ◇ | | ◇ | | MC 100mm F3.5 | ◇ | | ◇ | | |
| | MC 35mm F1.8 | ◇ | | ◇ | ベ ロ ー ズ 用 (オ ー ト ベ ロ ー ズ I 使 用 時) | 100mm F4 | 絞り込み測光 | } | ◇ | | |
| MC 35mm F2.8 | ◇ | | ◇ | PHOTAR 12.5mm F1.9 | | ◇ | | | 手動絞り | | |
| 標 準 | MC 50mm F1.7 | ◇ | | ◇ | | PHOTAR 25mm F2.5 | | | ◇ | ◇ | |
| | MC 50mm F1.4 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| | MC 58mm F1.2 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| 望 遠 | MC 85mm F1.7 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| | MC 100mm F2.5 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| | MC 100mm F3.5 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| | MC 135mm F2.8 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| | MC 135mm F3.5 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| | MC 200mm F3.5 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| | MC 200mm F4.5 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| | MC 300mm F4.5 | ◇ | | ◇ | | | | | | | |
| MC 300mm F5.6 | ◇ | | ◇ | | | | | | | | |

セルフタイマーの使い方

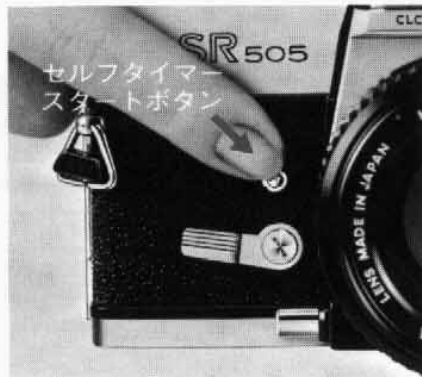
セルフタイマーは記念写真など、撮影者自身も含めて撮影する時などに使用します。

〈使い方〉

1 フィルムを巻上げた後、セルフタイマーレバーを矢印の方向へ回し、セルフタイマーレバーをセットします。



2 セルフタイマースタートボタンを押すと、セルフタイマーが作動し、シャッターが自動的に切れて撮影されます。



- セルフタイマースタートボタンを押しても、フィルムを巻上げていないと、セルフタイマーレバーは途中で止まります。

この時、セルフタイマーレバーをもう一度セットした後フィルムを巻上げて、再びスタートボタンを押してください。

- セルフタイマーレバーをセットして、シャッターボタンを押すとセルフタイマーは作動しないままシャッターが切れます。

フィルターの使い方

各種フィルターを使用する時も、TTL撮影が可能です。

●フィルターの種類と効果

| | フィルター名 | 色 | 効果 | 備考 | | フィルター名 | 色 | 効果 | 備考 |
|---------------------------------|--------------|----|--|---|------------------|--------|------------|--|----|
| 白 黒 フ イ ル ム 用 | L-39 (UV) | 無色 | 有害な紫外線をカットします | | カラー フィル ム用 | 1A | うすい ピンク | カラー撮影で木蔭などの 青味をおさえます | |
| | Y-48 | 黄色 | コントラストをつけます | | | 85 | 黄赤色 | タングステンタイプカラ ーフィルムを昼光で撮影 するとき用いる | |
| | O-56 | 橙色 | Y-48よりもさらにコン トラストをつけます | | | 80B | 青色 | デーライトタイプカラ ーフィルムを電灯光で撮影 するとき用います | |
| | R-60 | 赤色 | O-56よりもさらにコン トラストをつけます 赤外白黒フィルムと併用 で赤外撮影に用います | フィルムの使用書の 基準の露出より半 絞り開いた方が好 結果がえられます | 白黒、カラー フィルム兼用 | ND | | 露出過度の調節や絞り による被写界深度の調節に 使用します | |
| | G0 | 緑色 | 人物撮影に用い肌の質感 描写の効果があります | | | 偏光 | | ガラス面等の反射を除去 します | |

絞りについて

絞りは、フィルムに達する光量を調節し、ピントのあう範囲（被写界深度P33参照）を調節します。

絞りリングには例えばF1.4のレンズは1.4、F1.7のレンズは1.7というように各々レンズの開放時から16までの絞り目盛（F値）が白字でござまれています。絞りリングの希望する絞り値（白字）を前部の白マークに合わせます。

| | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-------|
| 絞 り | 1.4 | 2 | 2.8 | 4 | 5.6 | 8 | 11 | 16 |
| 光量比 | 1 | 1/2 | 1/4 | 1/8 | 1/16 | 1/32 | 1/64 | 1/128 |

- F1.4のレンズの場合に光量比は1.4を1とした場合の例です。



- 絞りは数値が大きくなるほどレンズを通してフィルム面にとどく光量が少なくなります。この関係は左図のように絞り値が大きくなるに従ってレンズを通る光量が減っていき、絞り値の1目盛の変化で1/2に変わります。
- 開放絞りの絞り値から F 16 まで目盛の中間にセットすると中間絞りがえられます（クリックがついています）
- 絞りとシャッタースピード目盛は互いに隣りの目盛の2倍、1/2の露光量となる関係になっており、露出調節はこの絞り目盛とシャッタースピードの組み合わせで行います。

絞り効果の確認

MCレンズ群は、開放測光方式ですので、ファインダーは常に開放絞りの状態になっています。したがって絞り効果(被写界深度)を確認するときは、プレビューボタンを押して、絞りを絞り込んでからファインダーで確認します。



通常するとき

- MCレンズで、広角、標準レンズの場合、プレビューボタンを押すとメーター指針は振れません。



絞り込んだとき

- 絞り効果確認後、絞りを絞り込んだ状態でシャッターを切っても差しつかえありません。シャッターが切れると絞りは自動的にもとの開放状態に戻ります。

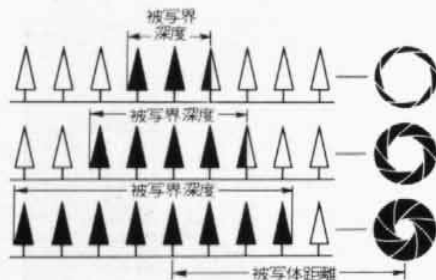
★シャッターを切る時、プレビューボタンを押したまま切ると、露出誤差を生ずる場合があります。

●被写界深度について

レンズの性質として、ある被写体にピントを合わせた場合、その前後にもピントの合っている範囲があります。このピントの合っている範囲が被写界深度です。

この被写界深度には次のような関係があります。

1. 絞り値が大きいほど被写界深度は深く、逆に絞り値が小さいほど浅くなります。



2. 被写界深度は距離が遠くなるほど深く、近くなるほど浅くなります。
3. 前方深度（手前）は後方深度より浅くなります。



4. 同じ絞り値では望遠レンズになるほど浅く、広角レンズになるほど深くなります。

- 被写界深度は各レンズの深度目盛でもわかります。例えば、被写体距離が5m、絞り値が8の場合には、▲マークの両側にある8の範囲内、つまり約3.5m～10mにある被写体はすべて鮮明に写ります。



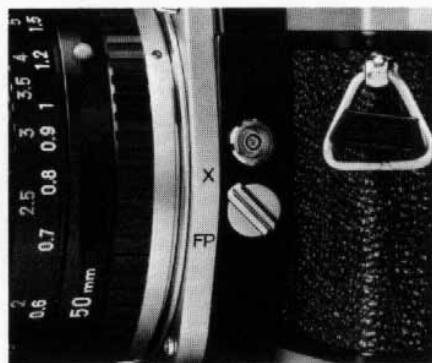
フラッシュ撮影の仕方

1 フラッシュをカメラに取付けます。

ノンコード式の場合はフラッシュをアクセサリシューにさし込むだけで使用できます。



2 使用カメラと、フラッシュにより次の操作をします。



SR505

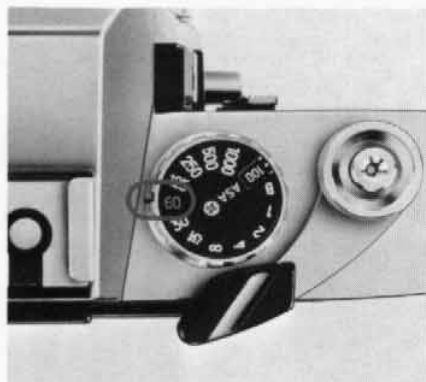


SR101

| | | SR505 | SR101 |
|---------------------|-----------|---|---------------------------------|
| フラッシュがノンコード式 のとき | ストロボ | コード操作不要、 指標をXにする | コード操作不要 |
| | FP バルブ | コード操作不要 指標をFPにする | 使用できません。コード式 でご使用ください |
| フラッシュがコード式 のとき | ストロボ | コードの先端をシンクローター ターミナルに差しこみ、指標 をXにする | コードの先端をX側のシンク クローターミナルに差しこむ |
| | FP バルブ | コードの先端をシンクローター ターミナルに差しこみ、指標 をFPにする | コードの先端をFP側のシンク クローターミナルに差しこむ |

3 シャッタースピードダイヤルをフラッシュ同調表に従ってセッ トします。

一般にストロボの場合は60にセ
ットします。



フラッシュ同調表

| シャッタースピード | 接点 | X | F P |
|-----------|-----------------|------------|--------------|
| | 使用 フラッ シュ | ス ト ロ ボ | F P 級 バルブ |
| B | | ○ | ○ |
| 1 | | ○ | ○ |
| 1/2 | | ○ | ○ |
| 1/4 | | ○ | ○ |
| 1/8 | | ○ | ○ |
| 1/15 | | ○ | ○ |
| 1/30 | | ○ | ○ |
| 1/60 | | ○ | ○ |
| 1/125 | | × | ○ |
| 1/250 | | × | ○ |
| 1/500 | | × | ○ |
| 1/1000 | | × | ○ |

○同調する

×同調しない

4 フラッシュのガイドナンバーを 基準にして露出を決めます。

露出の決め方は、次の公式から
絞り値を求めその絞り値（計算
で求めた数字に一番近い絞り値）
で撮影します。

$$\text{絞り値} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{撮 影 距 離}}$$

- 使用するフラッシュがオートスト
ロボの場合は、このようなめんど
うな計算を必要としませんので、
オートストロボの使用書に従って
ください。

5 シャッターを切ります。

★ストロボ撮影のとき、シャッター
スピードダイヤル1/125~1/1000
は使わないでください。この速度
で撮影すると画面が全部写りませ
ん。

★SR505でストロボ撮影のとき、タ
ーミナル切換ノブがXになっている
か、また、FPバルブで撮影の
ときはFPになっているか確認し
てください。



ストロボ撮影 1/60



ストロボ撮影 1/125
(画面が全部写りません。)

赤外撮影(赤外マークについて)

1 白黒赤外フィルム(赤フィルター併用)を使って赤外撮影をする場合は一般の撮影の場合とピントの結ぶ位置が異なります。したがって、赤外撮影をする場合は一度フィルターなしでピントを合わせた後、距離目盛の数値をR(赤外マーク)までずらせ、フィルターを取付けてから撮影します。

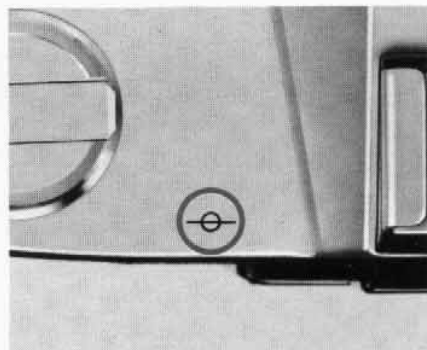


2 カラー赤外フィルムの場合は、このピント位置の補正をする必要はありません。

- 露出の決定は、赤外フィルムの使用説明書に従ってください。
- この赤外マークは赤外波長768nmで設計された数値です。特殊ストロボを使用する場合には、この補正量では適合しないこともあります。

⊕マークはフィルム位置

カメラボディの上部にある⊕マークは、フィルム面の位置を表示しています。被写体までの距離はこの位置から測ってください。特に接写、複写などの場合に使用します。



多重露光撮影(SR505)

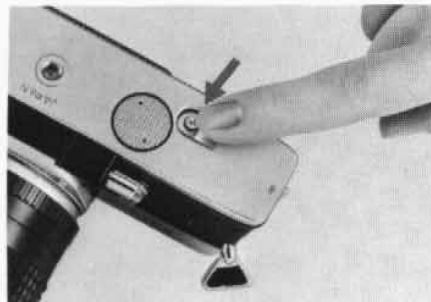
同じ画面に違った被写体や、同じ被写体を何回も写し込む多重撮影には多重露光ボタンを使えば簡単にできます。

この多重露光撮影のできるのはSR505のみです。

1. 多重露光の方法

1 1回目の露光をします。(シャッターを切る)

2 次に多重露光ボタン(巻戻しボタン兼用)を押しこみ、ボタンから指をはなした後、巻上げをおこないます。



3 2回目の露光をします。この操作を繰り返すと何回でも露光できます。

4 希望回数露光後、多重露光ボタンを押さずに巻上げをおこないますと通常の撮影状態に戻ります。

2. 露出の補正

多重撮影をする場合、被写体や撮影回数により露出の補正が必要な場合があります。

画面全体が明るい被写体をおしを何回も写し込む時や、同じ被写体を何回も写し込む時、2重撮影なら基準の露出より、ひと絞り絞って撮影してください。

3重撮影ならひと絞り半、4重撮影ならふた絞り絞って撮影してください。

● 夜空に開く花火や夜景に人物を写し込む時などは露出補正操作は不要です。

● 多重露光機構は、何回撮影してもフィルムは動かないように配慮されていますが、フィルムのたるみなどで時には微少のズレが出ることもあります。

★ 多重露光したとき、巻上げレバーの作動に連動してカウンターが進みますので撮影枚数にご注意ください。

参考編



主な性能

| | | SR505 |
|---------------|--|--|
| 型 式 | | TTL式露出計連動35ミリ、フォーカルプレキシッターカメラ |
| 画 面 サ イ ズ | | 24×36mm |
| レ ン ズ マ ウ ン ト | | ミノルタマウント |
| 標 準 レ ン ズ | | MCロッコール58mmF1.2、50mmF1.4、50mmF1.7 |
| フォーカシングスクリーン | | スプリットマイクロプリズム式 |
| ファインダー視野率 | | 94% (標準画面24×36mmに対して) |
| ファインダー倍率 | | 0.83 (f=50mm∞の場合) |
| ファインダー内表示 | | シャッタースピード目盛、絞り目盛、メーター指針、追針、バッテリーチェックマーク、および、連動外警告マーク |
| 測 光 方 式 | | 開放測光TTL、分割測光 |
| 測 光 範 囲 | | EV3~EV17(ASA100, F1.4) |
| フィルム感度範囲 | | ASA6~ASA6400 |
| シャッター | | フォーカルプレキシッター、B.1~1/1000 |
| セルフタイマー | | 内蔵、別ボタンスタート |
| フラッシュシンクロ | | FP、X接点、1ターミナル切換式、FP級フラッシュバルブ全速度同調 |
| シンクロターミナル | | JIS-B型ソケット |
| アクセサリシュー | | ホットシュー(感電防止付) |
| フィルム巻上げ | | レバー巻上式、小刻み巻上げ可能、巻上角150°、予備角20° |
| フィルムカウンター | | 自動復元順算式 |
| フィルム巻戻し | | 巻戻しボタンによる巻戻レクラック方式、巻戻しボタン自動復元 |
| 多重露光 | | 巻戻しボタンにより多重露光可能 |
| ミ ラ ー | | クイックリターン式大型ミラー |
| 裏 蓋 開 閉 | | 巻戻しノブ引上式、ワンタッチロック式 |
| 電 池 | | 水銀電池、JIS記号、H-D型1個使用、ON、OFF、BC回路切換ボタン付 |
| そ の 他 | | メモホルダー付、フィルムシグナル付 |
| 大 き さ ・ 重 量 | | 145(巾)×95(高さ)×47.5(奥行)mm、710g(ボディのみ) |

●仕様は都合により予告なしに変更する場合があります。

| SR101 | |
|---------------|---|
| 型 式 | TTL式露出計動動35ミリ、フォーカルブレンシャッターカメラ |
| 画 面 サ イ ズ | 24×36mm |
| レ ン ズ マ ウ ン ト | ミノルタマウント |
| 標 準 レ ン ズ | MCロッコール58mmF1.2、50mmF1.4、50mmF1.7 |
| フォーカシングスクリーン | マイクロプリズム式 |
| ファインダー視野率 | 94% (標準画面24×36mmに対して) |
| ファインダー倍率 | 0.83 (f=50mm∞の場合) |
| ファインダー内表示 | シャッタースピード目盛、メーター指針、追針、バッテリーチェックマーク、および、連動外警告マーク |
| 測 光 方 式 | 開放測光TTL、分割測光 |
| 測 光 範 囲 | EV3~EV17(ASA100, F1.4) |
| フィルム感度範囲 | ASA6~ASA6400 |
| シャッター | フォーカルブレンシャッター、B、1~1/1000 |
| セルフタイマー | 内蔵、別ボタンスタート |
| フラッシュシンクロ | FP、X接点2芯式、FP級フラッシュバルブ全速度同調 |
| シンクロターミナル | JIS-B型ソケット |
| アクセサリーシュー | ホットシュー(感電防止付)、但しホットシューはX接点のみ |
| フィルム巻上げ | レバー巻上式、小刻み巻上げ可能、巻上角150°、予備角20° |
| フィルムカウンター | 自動復元順算式 |
| フィルム巻戻し | 巻戻しボタンによる巻戻しクランク方式、巻戻しボタン自動復元 |
| ミ ラ ー | クイックリターン式大型ミラー |
| 裏 蓋 開 閉 | 巻戻しレノブ引上式、ワンタッチロック式 |
| 電 池 | 水銀電池、JIS記号、H-D型1個使用、ON、OFF、BC回路切換ボタン付 |
| そ の 他 | メモホルダー付 |
| 大 き さ ・ 重 量 | 145(巾)×95.0(高さ)×47.5(奥行)mm、705g(ボディのみ) |

●仕様は都合により予告なしに変更する場合があります。

主な特長

| SR505 | SR101 |
|--|--------------------|
| 1. もっとも使いやすい開放測光TTL | |
| (イ)ミノルタ独自の使いやすい開放測光TTL(CLC方式) | |
| (ロ)アイピースからの有害光防止機構付 | |
| 2. あらゆる撮影情報がひとめでわかるファインダー | |
| (イ)ファインダーが明るく、のぞくだけで、撮影の可否がひとめでわかる追針式 | |
| (ロ)シャッタースピード、絞り値、ファインダー内表示 | シャッタースピードファインダー内表示 |
| 3. レンズ交換は、不変のパヨネット方式で、迅速、正確なミノルタマウント | |
| 4. 広範囲な撮影をカバーするシステム | |
| システムカメラとしての、豊富な交換レンズ、および、撮影目的に応じたアクセサリ群の完備 | |
| 5. カラーに強いロココールレンズ群 | |
| すぐれたアクロマチックコーティングと電子設計による秀逸な総合描写力 | |
| 6. 多重露光が可能 | 多重露光不可 |
| 7. その他 | |
| (イ)フィルムシグナルにより、フィルムの装填、巻取り、巻戻しが確認できる | フィルムシグナルなし |
| (ロ)ミラー切れ防止の大型ミラー | |
| (ハ)ホットシュー固定(ノンコードガングリップ) | |
| (ニ)ミノルタX-1, XE用レンズ、および、アクセサリが使用できる | |
| (ホ)シンクロ接点がワンターミナルで切換式 | シンクロ接点二芯式 |

カメラの保存と手入れ

①カメラの清掃は空拭きかアルコールで

カメラはゴミやホコリをきらいませう。時にはカメラの清掃をしてください。

まずブロアーでゴミやホコリを吹き飛ばし、次に柔かいきれいな布でよく拭いてください。もし、薬品を使うときは、アルコール以外使わないでください。

②レンズの清掃はアルコールかレンズクリーナーで

レンズは絶えず汚れないように注意してほしいものですが、もし誤って汚した場合ブロアーでゴミを除き、清潔な木綿の布で軽く拭きとってください。

それでも汚れがとれないときは、レンズクリーニングペーパーに市販の液体クリーナー（コダック製、フジフィルム製など）かアルコー

ルを少しつけて軽く拭きます。

なお、液体クリーナーやアルコールはペーパーに浸みこませて拭くようにしてください。

液体クリーナー、アルコール以外使わないでください。

③ミラーには手を触れないでください。

小さなゴミや汚れがあってもミラーの機能には全く影響がありません。手でミラーを上げたり、下げたりすることは微妙な調整をくずす恐れもあります。

ミラーには手で触れないでください。

④カメラの保存場所は

高温・多湿やほこりっぽいところはさけ、風通しの良いところに保管し、長期間ご使用にならないときは、電池を取り出し、乾燥剤（シリカゲルなど）といっしょに缶の中にしまっておくとより安全です。

Minolta

ミノルタカメラ株式会社

☎541 大阪市東区安土町2-30 (06)271-2251
(大阪国際ビル)

☎105 東京都港区浜松町2-4-1 (03)435-5511
(世界貿易センタービル)